

フィリピン・ミンダナオ和平の関係者が広島に集結

01



フィリピンのアキノ大統領も含め、ミンダナオの和平プロセスに関わる関係者が一堂に会した



広島宣言の採択に臨むムラド議長(左)とデレス長官(中央)

フィリピン南部のミンダナオ島で約40年続いた、モロ・イスラム解放戦線(MILF)と政府の武力紛争が終結し、包括和平合意文書が調印されたのが今年3月。この和平プロセスを継続的に支援してきたJICAは、6月23~25日、バンサモロ新自治政府設立に向けた方針や課題を話し合う「ミンダナオ平和構築セミナー」を広島市で開催しました。

このセミナーは2006年からJICAとマレーシア科学大学が共催しているもので、ミンダナオ平和構築の関係者が率直に対話する貴重な場となりました。過去5回はマレーシアでの開催でしたが、今回初めて日本に会場を移し、MILFのムラド議長、和平プロセス大統領顧問室のデレス長官をはじめ、援助機関、NGO、教育機関などの関係者約90人が一堂に会しました。

23日にはオープニングを飾る公開フォーラムが開かれ、冒頭に田中明

彦JICA理事長があいさつ。「和平はフィリピン全体の発展に寄与し、ASEAN全体の安全保障にもつながる。ミンダナオの事例は世界の紛争解決のモデルになる」と述べました。ムラド議長は基調講演で「合意した内容が実施されてこそ意味がある。合意に基づく制度づくりに向け、最も重要なのは自分たちの意思で決定していくことです」と強調しました。

3日間にわたった本会合では、バンサモロの社会・経済開発、自治政府の組織と制度、治安の正常化について議論が交わされ、25日には「広島宣言」を採択。デレス長官は、「具体的な和平プロセスが交渉から実施へと移行するこの時期に、平和を象徴する広島で開催されたことは意義深い」と語りました。

JICAはこれからも新自治政府の体制や制度づくり、人材育成、地域開発計画の策定などを支援していきます。

田中理事長がブータンを訪問

02



ワンチュク国王陛下(左)と謁見した田中理事長

6月17~20日、世界一幸せな国、として知られるブータンを田中明彦JICA理事長が訪問しました。50年にわたり日本と友好関係を深めてきたブータン。ジグミ・シリング・ワンチュク前国王陛下、ジグミ・ケサル・ナムギャル・ワンチュク国王陛下との会談では、日本人専門家やJICAボランティアなど、人々を通して協力の高い評価を受けました。またツェリン・トブゲイ首相などは、水力発電、農業、観光、中小企業振興、鉱物資源開発に対する協力について意見交換しました。

田中理事長は「日本ブータン協力50周年記念式典」にも出席した他、日本の協力が長年実施された西部の街パロで、国立種子センターや農業機械化センターを訪問。28年間にわたりブータンの農業協力を貢献した故・西岡京治専門家の慰霊塔を参拝しました。

ワールドカップでアフリカとつながる

03



コートジボワールのチームカラー、オレンジの服装をした観客がJICA横浜に集合

約1カ月にわたり、ブラジルで熱戦が繰り広げられた2014 FIFAワールドカップ。JICAは日本の対戦国を身近に感じてもらうため、国内でさまざまなイベントを開催しました。

日本代表の初戦の相手はコートジボワール。JICA横浜ではソニー株式会社の協力により、パブリックビューイングを開催しました。日本在住のアフリカ出身者や一般市民など、合わせて360人以上が集まりました。応援のルールは「どちらが勝っても笑顔で」。あえて日本とアフリカをひとつに！というテーマ通りに、会場内は友好ムードに包まれました。

JICA関西などでもパブリックビューイング、JICA地球ひろばやなごや地球ひろばでは対戦国に関連する展示も実施し、サッカーを通じて、多くの人が世界に目を向けるきっかけになりました。